

平成29年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

リーダーシップで地域を牽引、「平群の小菊」をトップブランドに

○氏名又は名称 中尾 佳照、中尾 由美

○所在地 奈良県生駒郡平群町

○出品財 経営（小ギク）

○受賞理由

・地域の概要

平群町は、奈良県北西部に位置する生駒郡に属している。地形は西に町の面積の約3分の2を占める信貴・生駒山地で大阪府と接し、東に矢田丘陵があり、中央を竜田川が南流しており、その流域に細長い平地を形成している。東西に5.5km、南北に6km、総面積は23.9km²である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

中尾佳照氏は、平成元年に27歳で会社を退職し、実家（約70a）を継いで就農。その後、平成7年にJAならけん西和花卉部会理事に就任。以降22年連続で理事を務めた後、平成29年部会長に就任した。妻の由美氏は平成7年から農業経営に参画し始める。毎年順調に規模拡大を行い、現在は小ギクの延べ作付面積は約530aである。多品種栽培による長期連続安定出荷等により販売額を伸ばした。品質面でも優れており、農林水産大臣賞を3回受賞。

・受賞者の特色

(1) 技術

- ①規模拡大に必須である省力機械をいち早く導入し、産地全体への普及に貢献。
- ②薬剤散布時に効率的な「T字型噴口」を開発し、労力負担の軽減に成功。
- ③平成19年から、全国でもまれな8月盆電照抑制栽培技術の確立に取り組んでおり、栽培面積を拡大することで盆需要期の安定出荷による有利販売に貢献。
- ④電照、無加温施設の利用による端境期の品質向上に成功。
- ⑤超簡易ネット被覆法を用いた薬剤散布量の半減に成功。

(2) 経営

平群町は夏秋期の小ギク生産量日本一の産地であり、長期安定出荷の実績と大産地の信頼により予約相対取引を重視した有利販売を実現している。

JAならけん椿井花卉集出荷場に低温貯留庫を整備し、出荷切り花の鮮度保持を図ることで更なる有利販売につなげている。さらに小ギクの専作に特化することで市場シェア率を上げ、地域を牽引し、全国トップのブランドに育て上げた。

(3) 女性の活躍

中尾夫妻は、地域でも先駆的に家族経営協定を結んでいる。由美氏は地域でフレッシュミセスの会会長を務めたほか、選花・荷作り作業の責任者として雇用者をまとめ、さらに給与計算を含めた経理全般も担っている。

・普及性と今後の発展方向

中尾夫妻は、新技術の導入や販売体制の確立に先進的に取り組みながら、部会長としてのリーダーシップを発揮し、取引市場からの要望にも部会全体で対応するなど、「平群の小菊」のトップブランドの地位確立に大きく貢献しており、優秀なモデルとして期待できる。また平成27年に次男が就農し後継者のめどが立ったことから、今後もさらなる経営の拡大を目指す。